

まじかな秋田

第26号

令和4年10月29日
発行 立正大学同窓会
秋田県支部



「東海林先生遺稿文」 千年を超え「幸せ」を考える

秋田県支部参与 東海林 諦 顕

退職してから五年後、秋田市女性学習センターの講師を担当することになった。講演内容は講師に任されていたので迷わず「源氏物語」をテーマとし、講演は十六年間で百回に及んだ。その中から好評を博した「幸せ」についてまとめてみた。「まじかな秋田」の内容にふさわしいかは別として、千年前と現代の「幸せ」を対比して考えることは意義あることと思う。言わずもがな「源氏物語」は紫式部が三十二歳の時、夫を亡くし沈んだ気持ちをまぎらわせようと書き始めたといわれ、登場人物四百人の長編ラブストーリーで、平安貴族の藤原氏をめぐる権力闘争の中で女性として自らの才能と情熱を昇華させ、さらびやかな平安文化の頂点を築きあげた。

平安時代の文学には「さいはひ」の言葉が使われ「源氏物語」でもよく出てきます。漢字に置き換えると「幸い」となるが、しかし、千年前の「幸い」と現代の「幸い」では、女性の置かれた立場、求められた資質が違うので当然日常の在り方に影響し、「幸せ」の捉え方も微妙に違っていたようです。

たとえば「源氏物語」ではこの言葉は女性に対してしか使用されていません。それも光源氏などの貴公子から見初められたり、玉の輿に乗ったりした女性だけが「幸い」とされているのです。平安時代の「幸い」は自分で何かをした結果ではなく他者からたまたまもたらされる側面がほとんどで、女性達は自分の運命を他人に委ねるしかなかったといえます。たとえば紫の上などは母親が早く他界して祖母に育てられていた少女時代、光源氏に見初められたことよって人生が変わりました。彼女は光源氏に引き取られて成長し、やがて妻のような存在になるという「幸い」にあずかったのです。

明石の君にしても、瀬戸内の明石という鄙の地に暮らしていましたが、光源氏が隠遁生活をおくるために明石の地にやってきたことよって関係が生じ、子供が生まれます。それは明石の君が自ら望んで行動した結果ではなく、「たまたま」のことであり、それが「幸い」とされました。

混沌とした世の中、紫の上や明石の君は「ラッキー

」ではあったかもしれないが、その人生が「ハッピー」であったのかというと、疑問を感じずにはいられません。というのはせっかく出産してもすぐ母親から離され、宮廷の育ての親（紫の上）に育てられるという悲哀な運命がそれを物語っています。

紫の上は子のいない女性でした。そんな女性が夫の愛人である明石の子の養育を余儀なくされたのは辛かったと思います。その紫の上も光源氏の正妻ではなく、光源氏は紫の上がいながら別の女性とも結婚しているので、周りから見れば「さいはひ」と思われることの裏には多くの女性の涙が流れ、犠牲の上に成り立っていたわけです。この時代の女性像は知的で従順な生き方が美德とされ、十二単衣着飾ってただひたすら「ラッキー」を待つしかなかった閉鎖的な時代でもあったのです。

今日の女性は多様な生き方が保証され、「幸い」を得るために自分の意思で「ハッピー」を求めて快活に行動できるのはどう見ても恵まれていると思います。豊かな生活の中で「幸せ」とは単に「結果」ではなく、幸せを求めて紆余曲折するその「過程」自体が幸せの価値を高めたり、生き方の道標となっています。純粹に「幸せ」を求めていた千年前の平安の世から、価値観の多様な現代に紫式部が甦ったとしたらどう感ずるのであろうか。

更来年の大河ドラマ「光る君へ」は平安王朝を舞台に「紫式部」の人生が描かれることになりましたが、千年を超えて華やいた世界で「幸せ」をめぐる人間模様はどう紡がれていくのか楽しみます。

（昭和三十一年仏教学部宗門学科卒）

「まじかな秋田」No.二十六号へ寄稿 三月二十日事務局受理

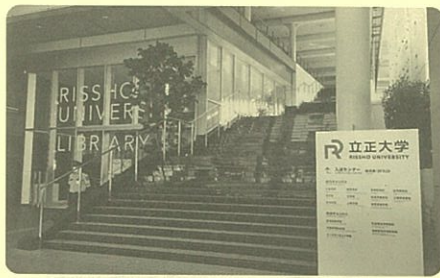


開校百五十周年に寄せて

秋田県支部長

齋藤 雅夫

立正大学は明治五年（1872年）に開校し、令和四年六月十五日（2022年）開校百五十周年を迎えました。六月二十六日付読売新聞の全面広告で、長期構想「立正グラウンドデザイン」が示されました。そのコンセプトは「多様性を尊重し、伝統と新たな知を融合することで、社会に革新をもたらすことのできる人材が集う学園」とありました。◇教育「成長のための基礎力と個性を磨く専門性の育成」◇研究「国際社会に貢献する研究の蓄積と発信」◇社旗貢献・連携「地域の活動を通して国際社会を考える」◇学園経営・運営「健全な経営をめざし、財政基盤とガバナンスを強化する」◇校友連携「生涯にわたる校友との連携体制の構築」と更なる飛躍を示してあります。現在の呼称は「立正大学学園」であることを今一度確認したいと思います。さて、我々団塊の世代が入学してから五十有余年



山手通りより品川キャンパス (6/15)



役員会：マスクを外して撮影 (7/23)

令和4年度 立正大学同窓会 秋田県支部役員一覧

役職	氏名	現住所
顧問	石山 輝夫	秋田市
支部長	齋藤 雅夫	大館市
副支部長	畑山喜久雄	秋田市
	小倉 孝昭	秋田市
	嵯峨 常信	秋田市
幹事	岡部 正彦	秋田市
	山田 恵祥	横手市
	*岩谷 宣行	秋田市
県北幹事	松橋孝四郎	北秋田市
	九島 平悦	北秋田市
	*小林 一彦	大館市
中央幹事	天野 寿	鹿上市
	藤岡 応川	秋田市
	館岡めぐみ 横塚 修一	五城市
県南幹事	宮原 保夫	湯沢市
	田中 章夫 高橋 由直	北上市
会計	大淵 憲久	鹿上市
監査	鎌田 聡	秋田市
	伊藤 弥	秋田市
事務局	中村 薫	鹿上市
	水野 聖和	秋田市
代議員	中村 薫	鹿上市

が経過しました。当時の世相からは隔世の感があり、学生が増え品川キャンパスが手狭になり、熊谷キャンパスを増設し学生を受け入れるという状況にありました。合わせて私立大学の乱立もあり、いよいよ大学の競争に発展していく過渡期でもありました。今では考えられない寮生活が入学のスタートでした。全国から集う学生は、まさに社会に出るための準備にはうってつけの大学教育でした。全てに自己責任が求められ授業は対面式のアナログで、汗と涙の四年間でありました。時代はグローバルとなり、それに即した生活環境と大学環境を学生が選ぶ時代になったと感じています。そのために魅力ある大学創出に努力されていることに同窓生として敬意を表します。大学も経営感覚がなければ、淘汰される時代なのだ、百五十周年を期に更なる発展を祈るものです。立正大学校友会が発足し、その中に同窓会が存在します。秋田県支部も設立から五十有余年が経過しました。多くの同窓生に支えられ今日に至っております。昭和三十七年度からは言うまでもないことです。昭和五十七年度から支部総会開催を継続していただけて新型コロナウイルスに

より三年連続の総会中止は大変残念であります。支部同窓会規約では、総会開催ができない場合、役員会の決定事項をもって総会の意思となります。この場でご報告したいのが支部役員の変更についてです。実は幹事の山田原禎行先生、参与の東海林諦頭先生が相次いで逝去され、顧問の真井田恭雄先生が高齢を理由に役員辞退の申し出がありました。幹事、県北幹事等の人選について役員会で協議した結果、左記のような体制で活動していきたいと思っております。ご理解とご協力お願いいたします。秋田県は高齢化が否めない状況で、四人に一人が七十五歳以上の人口比は、社会問題であり様々な分野に影を落としています。こうした中で、新旧交代しながら同窓会の役割を再確認しては活性化につながる方策をどのように具現化していくのが喫緊の課題です。本支部の七百名を超える同窓生のご意思を受容するとともにしかるべき同窓会活動の方向性を導くために毎年集う役員会、地区支部会、総会は貴重なものと思っております。このパンデミックを乗り越え、早く日常がもどることを念じつつ、百五十周年のその先を見据えて、共に歩んで参りたいと思っております。(昭和四十八年経済学部卒)

令和四年度

立正大学同窓会代議員会・全国大会

品川キャンパスにて開催

今年度の代議員会は五月二十一日（土）午後二時から立正大学品川キャンパスの第五会議室（第十一号館十一階）で開催されました。

コロナ禍でここ二年間諸会議を中止としてきたため、齋藤新会長の就任挨拶を通して、持続可能な同窓会の在り方や同窓会の目指す方向性について具体的に述べられていたことが印象的でした。

予定されていた議題（第一号議案～第十号議案）まで、熊本支部岡代議員の司会の下で、報告と承認、本部からの説明と質疑応答が予定時間を超えて行われ、滞りなく提案議事をすべて承認して午後五時に閉会いたしました。協議事項の中で活発な意見交換がなされた事項を列記すると「本部規約と代議員の選出について」「支部交付金の申請簡素化の要望について」「支部交付金の申請期限後の申請の救済措置

等であった。

最後に本部事務局からは開校百五十周年記念事業の十月十三日（木）記念シンポジウム「石橋湛山と建学の精神」、十一月六日（日）記念ツアー「バスで巡る日蓮聖人と立正大学の起源」の紹介、十一月五日（土）ホームカミングデーにおける都道府県物産展の出店についての要請がありました。

全国大会は、六月二十五日（土）午後一時より開校百五十周年記念館の地階「石橋湛山記念講演講堂」で開催されました。

開会後、昨年度なくなられた物故者の追善法要が厳かに行われました。続いて齋藤同窓会長の挨拶がありました。来賓紹介後、代表して望月兼雄理事長からご挨拶を頂戴しました。

置の可否について」「同窓会長の諮問機関としての活性化会議の位置づけと役割について」「保護者懇談会開催と開催支部との情報交換について」「定期大会から全国大会への名称変更の趣旨について」

訃報

小田原慎行さん（享年六十三歳）

三月二十七日ご逝去、秋田市生まれ、昭和五十七年文学部史学科大学院卒、県支部幹事（平成八年）

東海林諦顕さん（享年八十九歳）

八月十一日ご逝去、国後島生まれ、昭和二十九年仏教学部宗門学科卒、県支部長（昭和五十八年～平成三十年）、参与（令和元年）

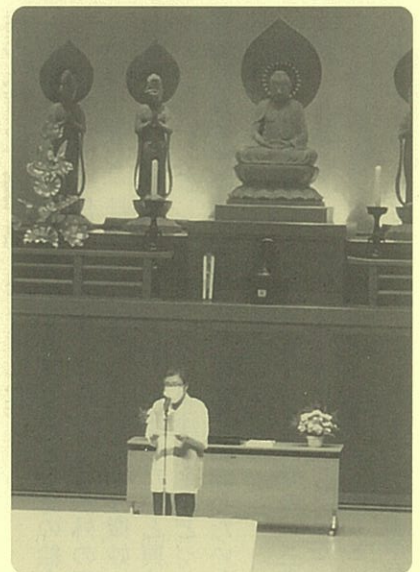
お二方とも同窓会の創成期より長年にわたり本県同窓会の充実・発展に献身的にご尽力され多大な貢献を賜りました。心より哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。



齋藤同窓会長のあいさつ



協議する代議員



全国大会開会セレモニー

全国大会記念講演会では、「小さな町の大きな挑戦」と題して、北海道の上川郡東川町の実践例について東川町長の松岡市郎氏（現在五期目）からプレゼンテーションをしてもらい、それを受けて、鈴木輝隆（立正大学地域連携チーフプロデューサー、元立正大学経済学部特任教授、江戸川大学名誉教授）から町づくりの普遍性と特殊性の提言について示唆に富む講評がありました。

松岡町長のプレゼンでは、東田川町が雄大な大雪山系の恩恵を受け、水、空気、大地、資源、景観までも最大限に活用して新たな付加価値を創出しながら新しい町づくりを生かしているユニークな実践例は興味深く、北国の雪と過疎をハンディと考えず、発想の転換を図り行政自らプラス思考の町づくりを反映させている点は他自治体でも参考にすべきと感じました。これからも留学生をたくさん受け入れながら多くの人との交流を大切に、スクラムを組み地方創造を構築していきたいと話していました。

最後に、令和五年度の全国大会は四国の香川県で行う予定で準備を進めていると説明がありました。

（秋田県代議員 中村 薫）



「時空を超えて」

久城寺の「三十六歌仙」・天井画

秋田県支部副支部長

小倉 孝 昭

私が久城寺の住職を務めて今年で四十八年の歳月を迎えました。顧みればさまざまな思い出があります。とりわけ印象深かったのは、当寺開創五百年の嘉年を迎えた平成十六年（二〇〇四）の年です。

その年は秋田市健都四百年にもあたり市を挙げて記念行事が開催され、千秋美術館では「佐竹本三十六歌仙絵巻」を二期にわけ「柿本人麿」「僧正遍照」を特別に展示、その模写絵巻が飾られました。

特筆すべきは事業実行委員長の石川好（秋田公立美術工芸短期大学長）氏がプロデュースした日本の漫画家三十六人が独自のタッチで歌仙をパロディ化した作品で、美術工芸短大「ももさだギャラリー」のユニークな展示は芸術の秋にふさわしく多くの市民を魅了することになりました。

実は我が久城寺の位牌堂にも三十六歌仙・展示



久城寺「三十六歌仙」・天井画



久城寺開創五百年記念誌より

私は初めて佐竹本三十六歌仙の実物「柿本人麿」を見て、「アレツ」と一瞬我を失った。というのは私のお寺にもこの天井画があり、幼少期よりこの「お侍さん」や「御姫さま」は見慣れており、薄暗い天井でも板に描かれた日本画独特の色は鮮やかに私の目に映っていたからである。

「そくだよな」この歌仙絵巻が作られたのは今から七百年前の鎌倉期に描かれたものだけに「柿本人麿」の絵では顔の部分に僅かに着色が見られ、和紙の剥離が時代に感じさせている。国宝級のお宝が我が寺に永らく眠ってきたこと、同じ空間で過ごしているという事実が驚嘆させられました。

これらのイベントを「今」の私たちの生活にどう結び付けたいのか。「柿本人麿」「僧正遍照」等有名な歌人の詠歌にふれながら少し探ってみよう。

秋田市遷都四百年記念事業で画期的なことは、国内に分散していた「佐竹本三十六歌仙絵巻」を一堂に会して千秋美術館、赤れんが郷土館、佐竹資料館で前・後期に分けて展示したことであろう。

千秋美術館では佐竹藩主の「佐竹本三十六歌仙絵巻」（大正八年切断）の上巻の巻頭を飾っていた「柿本人麿」（出光美術館所蔵）の模写絵巻を両側に開き前期展の目玉としました。後期展では「僧正遍照」（出光美術館所蔵）の切絵、土屋秀禾氏の模写絵巻、佐竹本絵巻が分断されたとき元の姿を留めようとして、当時の古筆の第一人者・田中親美氏の筆による模写本を飾り企画性を高めました。

僧正 遍照(そうじょうへんじょう)



すゑの露もとのしづくや世の中のおくれ
先だつためしなるらん(新古757)
天井歌 たらちめはかかれとてしもむば
たまの我が黒髪をなでずやありけむ
(後撰1240)

この「時代絵巻」の特別展示は、私がタイムカプセルで千百年の旅をしているようで不思議な感覚に浸ることになりました。

久城寺が開創五百年を迎え、その記念誌に「三十六歌仙・天井画」を掲載したところ、檀家の方々が「オッさん、いつか私たちにも天井画が判りやすく読めるようにしてくれないか」と宿題を与えられたように思えました。平安時代を代表する歌人と判ついても付随する達筆のひらがなが読めない、なんということはない私も読めない一人で、記念誌を編集する上で私も勉強する機会となりました。

デジタルカメラで一枚一枚撮影するために天井を見上げることは厳しく辛かったが、三十六枚もの絵を描き、歌を筆でしたためた繊細な作業を思うと感謝の気持ちで胸が熱くなりました。

千秋美術館の特別展示と久城寺の記念誌の絵を見比べながら古の作品を鑑賞できたことは法外の喜びでした。また、丹念に観察することにより微妙に異なる作風の発見があり、さらに探求したいと興味を湧いてまいりました。その数奇な運命をたどった歌仙の作者と絵師の作風は別の機会に紹介したいと思います。

布教伝道を旨とする身であり、久城寺の「三十六歌仙・天井画」をWEBサイトで公開しています。ぜひご覧ください。(ホームページアドレス <http://www.kujihoji.or.jp/>) (昭和四十五年仏教学部卒)



新生寮502号室・503号室

秋田県南支部

柴田政幸

を利用すると短距離で便利だったからです。また、503号室の仲間は、洗濯物を干す時は、502号室を通って行くと最短距離でした。つまり、16人が一緒の空間で生活をしていたので。

前略
先日は、新生寮同窓会（角館会場）に参加頂き、その上お土産までいただき有り難うございました。楽しい時が過ぎたことに感謝しています。

さて、2年後の会場の件ですが、8日夜T君に電話しましたところ、体調が思わしくなく開催に自信がないとのコメントでした。そこで、T君にK君の岩国会場案を提案しましたところ、快く承諾してくれました。直ぐに、K君にその旨を提案しましたところ、OKの承諾を得、後日案内状が各自に届くはず。2年後の開催地は、山口県岩国市で担当はK君であることを、お知らせします。

皆さんが帰路についた後、一日中雨が降りましたが、その後晴天が続いています。朝一に、外清掃です。深緑の東勝楽丁を掃いていると、「ご先祖様に「いい場所に生まれさせて頂き有り難うございます」という感謝の念と、何ともいえない幸福感を感じています。またの機会がありましたら、ぜひお立ち寄り下さい。お待ちしております。

草々

この葉書は、昭和43年新生寮に入寮した旧館502号室（8人）、503号室（8人）の新生寮2期生が、2年ごとに開催している「新生寮同窓会」を、私の角館の地で開催した時の、参加者への礼状です。なぜ、2つの違う号の寮生が合同で開催するのかという疑問は、二つの部屋を仕切っているドアがいつも開いていて行き来が自由の状態だったからです。特に自分が生活していた502号室の仲間、食事・風呂・授業に行くとき503号側の階段



新生寮同窓会（角館の自宅前で） 筆者：右より三人目

私が入寮したのは、大正9年生まれ父の指導方針が強かったようです。学生時代仙台で寮生活を体験した父は、寮生活の全てを把握していました。その中で次の3点が大きな理由のようです。①1人息子でわがままな年の割に子供っぽい私を、縦と横の繋がりの強い寮という共同生活を体験させ、人間性を鍛える。②食事をきちんと取らせ、健康を管理する。③全国の多くの仲間と接し、よりよい人間関係で長い付き合いをする。

私は、2年間の新生寮生活で、この3つは見事に達成されました。そのことは、先賢の目があつた父に感謝しています。その成果の一つが、この同窓会なのです。ちなみに、当時の仲間の住所を調べてみると、長崎・山口・岡山・長野・千葉・栃木・茨城・秋田・青森・北海道各1名、静岡4名、東京

2名と、全国に点在しています。卒業後、それぞれの地に就職し、年賀状の交換を通して安否を確かめ合っていました。退職後このような会を通して再会し健康を確かめ合っています。

（昭和四十七年文学部史学科卒）

令和3年度支部年会費納入者一覧 (50音順)

赤川真也	奥村涉	佐藤稔	那須誠	村岡洋志
天野寿	小倉孝昭	柴田政幸	畠山功規	山内清久
石川是仁	海道利夫	東海林諦	畑山喜久雄	山本侑修
石郷岡栄子	加藤博明	菅原勇由	長谷山信介	山塚修一
石山輝夫	鎌田憲司	高橋由直	眞井田恭雄	
伊藤和智	金田聡	棚谷春信	松橋孝四郎	
伊藤弥行	金光康雄	千葉春悦	三浦良隆	
岩谷宣行	工藤利典	千富弘圭	水野聖和	
大瀨憲正	齋藤雅夫	戸中	水皆川典子	
岡部正彦	嵯峨常信	村	原保夫	
				非公表匿名 1名 (45名)

春の叙勲

この道一筋に晴れの榮譽に輝く 身近な郵便局を目指して

県北支部 金田 憲司氏



国の内閣府では、毎年春秋に多年にわたり社会福祉施設、民生・児童委員、消防、僻地の医師等各分野の業務に精通し功労

があつた方に叙勲を授与することになっています。今年度、春の叙勲の授与者の中に、郵便業務に携わった金田憲司さん（74歳）が令和四年四月二十九日付の北鹿新聞に掲載されました。支部同窓会では、この慶事を会報でご紹介し、会員の皆さんに周知しお祝いしたいと思います。

金田さんは北秋田市生まれ、1970年、立正大学経済学部経済学科卒業、同年東京都麻布郵便局に採用され、「地域の身近な郵便局」を目指し、81年に北秋田市の下小阿仁郵便局長に就任。機能強化や部下、隣局の指導などに尽力し続けました。

2000年には、県北部連絡会の貯金理事に引き続き辣腕を發揮。退職する平成10年まで同会の東北管内での貯蓄成績を常に上位に保ち続けてきました。その功績がたたえられ、2004年に東北支社長表彰を受けられました。

大事にして生きてきたことは、利用者の声を聞く姿勢。身近な郵便局であり続けられるよう「部下や隣局に対し常に十分な指導を心がけていた」といいます。郵政民営化が思い出深い出来事で、「部下達がよく頑張ってくれ大きなトラブルもなく移行できたこと」と話してくれました。

（資料提供：支部長齋藤雅夫）

東海林先生を偲ぶ会のご案内

夏の長雨の最中、東海林諦頭先生（県支部参与、前支部長）が逝去されました。

東海林先生は県支部同窓会の草創期から活動に関わり会規約制定をもとに昭和五十七年より総会を開催、コロナ禍で中止を余儀なくされるまで連続開催を続けてまいりました。

この実績は全国でも顕著な活動であり、また、全国に先駆けて支部年会費を導入するとともに支部会報「きずな秋田」を創刊、現在二十六号に達し発信に努めてまいりました。

このように東海林先生は支部同窓会を陰に陽に牽引して参りましたので、この訃報に接したただだ驚愕するだけで誠に残念でなりません。

ここに生前の思い出を語りながらお別れをする「東海林先生を偲ぶ会」を開催し、先生を悼み慰めたいと存じます。多くの会員の皆様にご出席いただけるようご案内いたします。

「東海林先生を偲ぶ会」実行委員長

秋田県支部副支部長 畑山喜久雄

- 日時 令和四年十一月十九日(土) 正午
- 会場 イヤタカ(旧弥高会館) 電話018(835)1188
- 会費 三千元(追善供養代、献花代、偲ぶ会軽食代)

※なお、「東海林先生を偲ぶ会」の参加の有無については同封の支部年会費の振込用紙をご利用下さい。

令和四年度支部総会（横手市）の中止について

秋冷の候、会員の皆様には益々ご健勝でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、今年度の総会については、七月の役員会では開催する方向で検討しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により感染防止の観点から、

会務報告

令和四年度の会務報告は次の通りです。

- 5月21日(土) 代議員会(品川キャンパス) 中村出席
- 6月25日(土) 全国大会(品川キャンパス) 中村出席
- 7月9日(土) たちばな保護者会(盛岡市) 中止
- 7月23日(土) 支部役員会(秋田市・イヤタカ8名)
- 10月23日(土) 支部総会(横手市) 中止
- 10月29日(土) 支部会報「きずな秋田」26号発行
- 11月3日(土) 同窓会物産展(品川キャンパス) 中止
- 11月19日(土) 東海林先生を偲ぶ会(秋田市・イヤタカ)

事務局だより

圃場は稲刈りが終わり山は紅葉が始まった。いつも通りのおだやかな里山の風景だ。しかし、人類はいまだに新型コロナウイルスを収束できずに四度目の冬を迎える。

そんな最中、政府はウィズコロナを提唱し全国旅行支援をスタートさせた。確かに人流の再開は一時的な経済効果が見込まれるが、コロナ禍で気づけた新しい価値観による豊さを忘れず、感染対策の徹底を改めて自らに言い聞かせたい。

支部会報26号が完成した。創刊から巻頭言を担ってきた東海林先生の格調高い表現と機微に富む文章はいよいよ見納めとなる。その先生を偲ぶ会を行うことになった。多くの会員の出席を得て在りし日の思い出を語りながら悼み、謹んで追善供養したいと思う。

先生はことのほか同窓会の縁を大切にしてくられた。今後とも会員のところをつなぐために紙面の充実を図り継続することが先生のご恩に報いることになる。合掌

残念ですが、支部総会を中止することにしました。

なお、支部年会費はこれまでと同様、総会の開催にかかわらず同封の振込用紙をご利用いただき、納入していただくようよろしくお願い致します。

秋田県支部長 齋藤 雅夫